

高崎女子高等学校 学校評価一覽表 ① (令和4年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育プログラム等により、高女に魅力を感じていますか。	・高女が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	・学校評価アンケートを実施し、実態を把握する。	A (生徒95%) (保護者95%)	—	今後も、コロナ禍でも工夫しながら、また、生徒が主体的に活動できるような内容を実施していく。	A (生徒96%) (保護者95%)	—	来年度はコロナ以前と同様のプログラムを実施し、(例えばアメリカでの希望者研修の実施や入場者規制のない椎樹祭の実施など) 生徒の資質向上を図る。
	2 科学的探究活動やグローバル人材育成活動に取り組んでいますか。	・学校で実施する各種研修やプログラムに満足している生徒の割合が80%以上である。	・各研修・プログラム終了後のアンケートや学校評価アンケートを活用する。	B (参加生徒100%)	—	コロナ禍のため、国際交流関係のプログラムで実施できないものもあつたが、校内でも取り組ませるべく、夏休みに実施したグローバルリーダー養成ワークショップでの参加者の満足度は非常に高かった。	B (生徒75%)	—	コロナ禍であることを前提にしたプログラム、指導体制を整えていく必要がある。また、全生徒を対象にしたプログラムも充実させる必要がある。
	3 外部機関との連携による教育活動の活性化を行っていますか。	・各種講演会や、大学や研究機関、企業を訪問する学習活動の取り組みに満足している生徒が80%以上である。	・ポートフォリオ等を用いて、探究活動の自己評価を参考にする。	—	—	外部機関への個人インタビューは、実施できた生徒は大きな学びを得られている。1学年は官公庁・企業訪問を進めてさらなる探究活動の充実を図るとともに、2学年は個人探究をさらに深め、その過程での外部連携を活性化させたい。	A	—	外部機関へのインタビューは99.8%の生徒が、学びを深めるのに効果的であったと回答しており、教育活動の活性化に寄与できた。次年度以降は、より一層の充実を図りたい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 主体的・対話的な深い学びになる「探究的な学習の時間」(課題研究)を行っていますか。	・協働して、または独自のテーマを設定して探究活動を進めていると自己評価している生徒が80%以上である。	・「総合的な探究の時間」の自己評価の数値等を利用する。	—	—	興味関心のある分野の第一人者インタビューを実施している生徒も昨年度より大幅に増加する一方で、組織的な指導をできていない部分もある。より一層の指導体制の充実を図りたい。	B	—	椎樹プランと連動したプログラムにすることで、探究活動に十分な時間を割けるように工夫を図りたい。
	5 生徒は主体的・対話的な深い学びのもと、確かな学力を身に付けていますか。	・授業に満足している生徒が、80%以上である。	・学校評価アンケートを実施し、生徒自らが自己の進路実現のため必要とする学習に取り組んでいるかを調査する。	A (生徒97%) (保護者82%)	—	授業に満足している割合は多い。研修を通じて、主体的・対話的で深い学びが展開できるような研鑽を積む。	A (生徒98%) (保護者84%)	—	授業に満足しているが、確かな定着が図れるような取組の実施や学校側の体制を整えていく。
	6 学習内容の定着を図るため、自己が必要とする内容・分量で家庭学習に取り組んでいますか。	・家庭学習について、自らが必要とする内容・分量で取り組んでいると感じている生徒が80%以上である。	・学校評価アンケート及び学習時間調査により、生徒の家庭学習の状況を把握する。	C (生徒48%) (保護者76%)	—	生徒の自己評価が低い主たる原因は、もっと取り組めると思っているが、モチベーションが高められないため取り組めないことである。高めるような取組の立案をすることにも、次に多い原因の運動部の負担対策も行う。	B (生徒60%) (保護者78%)	—	大学訪問や様々なレクチャーを実施してキャリア形成を図るとともに、自己効力感を高める教育方法を実施していく。
	7 生徒に年間学習計画や学習意欲を喚起していますか。	・シラバスによって授業進度を理解し、学年通信や教科担当が発信する文書などで、試験範囲や学習のポイントを確認している生徒が80%以上である。	・学校評価アンケートによりシラバスや学年通信の利用状況を調査する。	B (生徒26%, 94%) (保護者67%, 94%)	—	学年通信や教科担当が発信する文書などは94%の生徒が利用しているが、シラバスの利用率は低い。年度当初にシラバスを用いた授業説明を徹底する。	B (生徒29%, 93%) (保護者74%, 94%)	—	シラバスの利用率が低いため、シラバスを用いた授業説明を必ず実施するよう教員に促す。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	8 組織的・継続的な指導を行っていますか。	・3日連続で欠席した生徒に適切な対応を行い、関係者で情報を共有する。	・欠席連絡票や保健日誌を活用する。	A	—	学年を中心に対応出来ている。全体の職員へ定期的に報告がなされ、情報が共有されている。	A	—	学年や分掌での会議や校務委員会、職員会議の場で、生徒情報の共有が的確になされている。
	9 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	・いじめ件数0をめざす。いじめに関しては、早期発見に努め、年3回以上のアンケートを実施する。	・いじめは積極的に認知するとともに、校務委員会や学年会議で情報共有を行うほか、SCとのコンサルテーションを実施する。	B	—	面談やアンケート、教育相談週間を活用して、引き続きいじめの認知を積極的に行い、いじめ防止対策委員会で迅速に対応する。教育相談より生徒に即ち未然防止策を示したり、SCとのコンサルテーションで、いじめの未然防止策を共有したりする。	A	—	いじめは0件ではなかったが、生徒がいじめや悩みを相談しやすい状況であり、早期に対応することできていた。今後も学年と教育相談部の連携を密にとり、早期発見に努め、SCを含むいじめ防止対策委員会を中心に迅速に対応していきたい。
	10 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	・1日の全校生徒数における遅刻者の割合が、2%未満である。	・教務日誌において遅刻者数を調べ、職員会議等で職員全員による状況の把握に努める。	A	—	1日の全校生徒数における遅刻者割合は、1学期0.3%であり、目標を上回っている。生徒の体調管理は良好である。(1日平均2.56人)	A	—	1・2学期(4月～12/19月)で遅刻者割合は0.5%である(1日平均4.17人)。生徒の体調管理は良好である。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	11 計画的な指導を行っていますか。	・生徒に本校のキャリア教育の「椎樹プラン」を提示し、そのプランを活用している生徒が80%以上である。	・学校評価アンケートを活用し、その実態を調べる。	B (生徒92%) (保護者86%)	—	学校は進路や夢をかなえてくれる場所と考えている生徒や保護者は多いが、大学入試改革などにより「椎樹プラン」そのものの見直しの時期に来ている。	B (生徒93%) (保護者87%)	—	生徒や保護者の評価は高いものの、新しい大学入試制度に向けて、より一層の「椎樹プラン」の見直しが必要とされている。来年度に向けて整備を進めたい。
	12 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	・自己分析を行うとともに、自分の適性と進路を関連づけて能動的に取り組む生徒が80%以上である。	・進路希望調査や2者面談を実施して状況確認に努めるほか、学校評価アンケートで状況を調査する。	B (生徒73%) (保護者78%)	—	1・2年生において自分の適性と進路を関連づけることが難しいと感じているようである。下級生のうちに大学研究やキャリア教育を計画的に行う必要がある。	A (生徒80%) (保護者82%)	—	第1回と比較して特に1年生の積極的に取り組む割合が増えた。大学訪問や大学教授出前授業などのキャリア教育の効果があつたと考えられる。
	13 適切な進路情報を提供していますか。	・生徒の将来の希望について理解している保護者が80%以上である。	・生徒、保護者の状況を学校評価アンケートを用いて把握する。	A (生徒88%) (保護者81%)	—	生徒の将来について理解している保護者が多い。また、適切な進路情報を提供されていると感じる生徒保護者とも学年が上がるにつれて多くなっている。	A (生徒90%) (保護者86%)	—	生徒の将来について理解している保護者の割合が90%と非常に高い。第1回と比較しても上昇している。

(裏面へつづく)

羅 針 盤		
評価対象	評価項目	具体的数値項目
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	14 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 録画した動画やオンライン配信等の手段も含め、複数回の授業公開を実施する。 web ページをこまめに更新し、学校の最新情報を提供する。
	15 中学校や地域との情報交換・連携を進めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 「学校評議員会」、「学校関係者評価委員会」を年2回実施する。また地元小・中学校との連携を深める。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	16 ICTを活用した指導を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教師が、ICTを活用した授業を実施する。
	17 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 各種会議においてクロームブックを活用し、ペーパーレス化を進める。

方 策
<ul style="list-style-type: none"> 「学校の新しい生活様式」等を参考に、安全な学校公開などの企画の開催をPTAと連携して検討する。 学校行事や探究活動、部活動の各種大会結果等を速やかにweb ページに公開する。 中学校の学習支援ボランティアや、小学校のイベントボランティアに参加しやすい環境を整える。
<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを実施して状況を把握する。
<ul style="list-style-type: none"> 教員を対象とした学校評価アンケートで状況を確認する。

第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
B	—	渉外部、PTA本部役員、広報委員等と連携し、必要な情報を発信できる工夫を行う。	B	—	次年度はコロナ以前と同様に授業参観を実施する。
A	—	各分掌等と連携し、行事等終了後すぐに更新できるように個々に依頼する。	A	—	学校の様子がタイムリーに分かるように動画を含めて内容を更新していきたい。
B	—	学校評議員会の日程を調整し、さらに出席しやすい環境を作る。小学校のイベントボランティアもさらに積極的に参加を呼びかける。	A	—	学校評議員会を予定通り2回実施することができた。また、ボランティア活動を通し近隣の小学校、地域と連携をとることができた。
A	A	効果的な利用法について学び合うために、授業公開などを利用して情報交換を行う。	A	A	より良い機器の利用や教材・教具の精選などを実施する。
A	A	各種会議でクロームブックの活用が進んでいる。全ての会議で活用できるように環境を整える。	A	A	業務改善のためのクロームブックの活用の研究を更に進めていきたい。